

授業科目	幼児と人間関係			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	太田裕子、大関嘉成						
ナンバリング	E21S111	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修 主事任用:			実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配付資料を用いて、乳幼児期の人間関係の発達、現代の子どもを取り巻く人間関係をめぐる課題を学ぶ。また、保育現場で見られる具体的な事例に関する映像資料の視聴及びグループ討議を通して、発達の過程における人と関わる力の育ちの重要性についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明ができる。</li> <li>・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。</li> <li>・乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園、保育所、認定こども園における関係発達論的視点から理解する。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴 (担当 太田)				
		内容	子どもを取り巻く人間関係について学び、現代の特徴についてグループディスカッションを行う。				
		授業時間外学修	予習: シラバスを熟読する。 復習: グループディスカッションについての感想をまとめる。				
	第2回	テーマ	生涯発達と人間関係 (担当 太田)				
		内容	保育における領域「人間関係」の位置づけ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を知り、生涯発達における人間関係の意義を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習: 幼稚園教育要領 P.16、保育所保育指針 P.24~25、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.27~28 を読む。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	乳児期の人との関わり (担当 太田)				
		内容	乳児期の人との関わりの重要性について学び、保育における乳児のとの関わり方について考える。				
		授業時間外学修	予習: 保育所保育指針 P.14~15、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.18~19 を読む。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	生活の中で育つ人と関わる力①家族との関わり (担当 太田)				
		内容	子どもが家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育む体験につい				

	回		てグループディスカッションを行う。
	授業時間外 学修		予習： 幼稚園教育要領 P.7 を読み、自分自身の幼少期からこれまでの生活を通して家族の愛情を感じた経験を書き出す。 復習： グループディスカッションについての感想をまとめる。
第 5 回	テーマ	生活の中で育つ人と関わる力②地域との関わり	(担当 太田)
	内 容	子どもが地域の人々などと触れ合い親しみを持ち、人と関わる楽しさを味わえるような体験についてグループディスカッションを行う。	
	授業時間外 学修		予習： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.28 を読み、自分自身の幼少期からこれまでの生活を通して地域の人々と触れ合い、親しみを感じた経験を書き出す。 復習： グループディスカッションについての感想をまとめる。
	テーマ	園生活の中で育つ人と関わる力①保育者の役割	(担当 大関)
第 6 回	内 容	保育実践の事例を踏まえ、園生活の中で子どもの人と関わる力を育む保育者の役割について考える。	
	授業時間外 学修		予習： 幼稚園教育要領 P.16～17、保育所保育指針 P.24～26、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.27～28 を確認し、自分自身の幼少期における保育者との関わりを書き出す。 復習： 授業内で課されたワークシートをまとめる。
第 7 回	テーマ	園生活の中で育つ人と関わる力②友だちとの関わり	(担当 大関)
	内 容	保育実践の事例を踏まえ、園生活の中で人と関わる力を育む友だち関係の構築について考える。	
	授業時間外 学修		予習： 幼稚園教育要領 P.16～17、保育所保育指針 P.24～26、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.27～28 を確認し、自分自身の幼少期における友だちとの関わりを書き出す。 復習： 授業内で課されたワークシートをまとめる。
	テーマ	子どもの遊びの中で育つ人と関わる力①保育者の役割	(担当 太田)
第 8 回	内 容	保育実践の事例を踏まえ、遊びの中で子どもの人と関わる力を育む保育者の役割について考える。	
	授業時間外 学修		予習： 実習日誌を読み直し、人と関わる力を育む保育者の支援を再確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	子どもの遊びの中で育つ人と関わる力②友だちとの関わり	(担当 太田)
	内 容	保育実践の事例を踏まえ、人と関わる力を育む友だち関係の構築の重要性について学ぶ。	
	授業時間外 学修		予習： 実習日誌を読み直し、友だちとの関わりをとおして人と関わる力を培う子どもの姿を再確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	子どもの自立心の育ち	(担当 太田)
第 10 回	内 容	具体的な事例を踏まえ、「自立心」に関する子どもの育ちを学ぶ。	
	授業時間外 学修		予習： 幼稚園教育要領 P.6、保育所保育指針 P.11、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.6 の「自立心」の項を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

	第11回	テーマ	子どもの協同性の育ち (担当 太田)
		内容	具体的な事例を踏まえ、「協同性」に関する子どもの育ちを学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 幼稚園教育要領 P. 6、保育所保育指針 P. 11、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 6 の「協同性」の項を読む。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる。
	第12回	テーマ	子どもの道徳性・規範意識の芽生え (担当 太田)
		内容	具体的な事例を踏まえ、「子どもの道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの育ちを学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 幼稚園教育要領 P. 6、保育所保育指針 P. 11、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 6 の「子どもの道徳性・規範意識の芽生え」の項を読む。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる。
第13回	テーマ	子どもの人間関係の広がり (担当 太田)	
	内容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの人間関係の広がりについて考える。	
	授業時間外学修	予習： 保育所保育指針 P. 18～19、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 21～22 を読む。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる。	
第14回	テーマ	人との関わりにおいて様々な配慮が必要な子どもへの支援 (担当 太田)	
	内容	人との関わりにおいて配慮が必要な子どもの実状を知り、援助のあり方について考える。	
	授業時間外学修	予習： 実習日誌を読み直し、個別支援を要する子どもの姿と保育者の援助を再確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第15回	テーマ	子どもを取り巻く人間関係における現代的課題 (担当 太田)	
	内容	子どもを取り巻く人間関係に関する現代の課題を学び、保育実践における配慮事項について考える。	
	授業時間外学修	予習： 新聞記事等を参考にして、現代の子どもをとりまく人間関係についての課題にはどのようなものがあるかを書き出す。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
成績評価の方法・基準	最終レポートと毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児期の人間関係に関する専門的理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。最終レポートについては、採点后講評する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にて解説する。最終レポートについては、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。最終レポート作成に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 8 時間）		
備考	—		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	幼児と環境		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	小森谷 一郎						
ナンバリング	E21S112	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	関係法令等に基づいて、幼児を取り巻く環境やその現代的課題について学ぶ。また、実際の保育映像、写真、ドキュメンテーション等などを活用し、幼児にとって身近な環境と関わりを通じた発達について学ぶとともに、フィールドワークや幼児の遊びを体験することで学びを深める。最後にこれまでの学びを生かして幼児の発達に基づいた環境構成を考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。</li> <li>・ 幼児の身近な数量・図形、生物・自然との関わりを通じた幼児の発達について理解する。</li> <li>・ 幼児の身近な標識・文字等、情報・施設との関わりを通じた幼児の発達について理解する。</li> <li>・ 「自分で考え、実践できる力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」能力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第 1 回	テーマ	オリエンテーション ～幼児にとっての環境～				
		内容	これからの授業の進め方や評価等について説明する。 幼児にとっての環境とはどんなものがあるのかを切り口にしてこれから学修する内容について知る。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	幼児を取り巻く環境 (1) ～幼児の発達における環境との関わり～				
		内容	幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ				
	第 3 回	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	幼児を取り巻く環境 (2) ～現代的課題～				
	第 4 回	内容	現在の幼児を取り巻く環境の特徴や知識基盤社会、ESD、SDGs 等の環境に関する現代的課題について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 5 回	テーマ	幼児期の思考・科学的概念の発達 ～幼児期の認知的発達～				
	第 6 回	内容	幼児期の思考・科学的概念の発達について学ぶ				
		授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
第 7 回	テーマ	幼児の身近な環境 (1) ① ～生物・自然との関わり～					

5 回	内 容	飼育・栽培等の活動を通して、幼児を取り巻く環境について学び、具体的な環境と環境への幼児の関わり方を考える。
	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ	幼児の身近な環境 (1) ② ～動植物の飼育・栽培～
	内 容	飼育・栽培等の活動を通して、幼児を取り巻く環境について学び、具体的な環境と環境への幼児の関わり方を考える。
回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	幼児の身近な環境 (1) ③ ～フィールドワーク（自然体験活動）～
第 7 回	内 容	幼児の身近な自然物について体験的に学び、具体的な環境と環境への幼児の関わり方を考える。
	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ	幼児の身近な環境 (1) ④ ～幼児の経験と学び～
	内 容	幼児の身近な自然物について体験的に学び、具体的な環境と環境への幼児の関わり方を考える。
回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	幼児の身近な環境 (2) ① ～身近な素材を使った遊び～
第 9 回	内 容	幼児の身近な物理的、数量・図形との関わりについて体験的に学び、具体的な環境と環境への幼児の関わり方を考える。
	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ	幼児の身近な環境 (2) ② ～幼児の経験と学び～
	内 容	幼児の身近な物理的、数量・図形との関わりについて体験的に学び、具体的な環境と環境への幼児の関わり方を考える。
回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	幼児の身近な環境 (3) ～標識や文字等との関わり～
第 11 回	内 容	幼児を取り巻く標識・文字等への環境とそれらへの興味・関心、それらとの関わり方について体験的に学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ	幼児の身近な環境 (4) ～情報・施設との関わり～
	内 容	幼児を関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について体験的に学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ
	内 容	園庭や保育室などでの保育事例を基にして、環境構成の意義について学ぶ。

	回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	幼児教育から小学校教育へのつながり ～児童期の認知的発達～
		内 容	児童期の認知的発達について学び、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領を基に、環境を視点に置いて幼児期の育ちが小学校へどのようにつながっていくのかを学ぶ。
	回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ ～環境を通じた教育～
		内 容	これまでの内容を振り返りながら、環境を通じた教育についてまとめる。
回	授業時間外 学修	予習：これまでの学修内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。 復習：これまでの学修内容を見直し、要点をまとめる。	
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>また、授業の中で適宜資料を配付する。</p>		
参考書・参考資料等	<p>事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境（無藤隆監修・福元真由美編者代表 萌文書林）</p> <p>保育の心理学（本郷一夫・飯島典子編著 建帛社）</p> <p>基礎から学べる保育内容（環境）ワークブック（田中卓也・岡野聡子他編著 あいり出版）</p>		
成績評価の方法・基準	<p>授業後のレポート（小レポート10回、大レポート3回）による「幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義についての理解」「幼児の身近な数量・図形、生物・自然との関わりを通じた幼児の発達についての理解」「幼児の身近な標識・文字等、情報・施設との関わりを通じた幼児の発達についての理解」の程度（70%）、「自分で考え、実践できる力」（1）獲得（学修の成果物）の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートや指導案の内容については、次回の授業にて解説をする。</p>		
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画に示された内容を実施する。</p> <p>返却された提出物については、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（約2時間）</p>		
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員は、公立小学校で16年、公立幼稚園で6年教諭として業務に従事した実務経験をもつ。教諭としての実務経験を生かして、保育方法の学習について具体的な事例を挙げながら授業を行う。</p> <p>学生の理解度によってシラバスを一部、変更する可能性がある。</p>		
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 水曜日 12:25～12:50</p> <p>その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	幼児と言葉		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	柏倉弘和					
ナンバリング	E21S113	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	言葉の特性や発達についての知識を獲得させるとともに、伝えることの重要性や難しさについて、映像資料や事例、絵本等を用いて考えさせる。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の特性や発達過程、言葉による伝え合いの大切さを理解することができる。</li> <li>「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。</li> </ul>					
授業計画	第1回	テーマ	言葉と事物の関係について			
		内容	事物と名前の関係を考え、言葉の働きについて学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第2回	テーマ	言葉の記号性について			
		内容	記号とは何か、どんな特徴があるのか考え、言葉の性質について学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第3回	テーマ	言葉の意味について			
		内容	意味とは何か、どんな特徴があるのか考え、言葉の意味について学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、意味を取り違えたことがなかったか考えておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第4回	テーマ	文脈(コンテキスト)について			
		内容	文脈とは何か、伝達においてどんな役割を果たしているのか考え、伝達の仕組みについて学ぶ。			
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、友だちと話はずんだ時のことを考えておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。			
	第5回	テーマ	言葉で伝える難しさについて			
		内容	「奇跡のひと」という映画を視聴し、言葉で伝えることの難しさを感じ取る。			
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、どんな時に言葉を使う難しさを感じたか整理しておく。 復習： 自分が映画の主人公の立場であったら、どのような生活を送っていたか想像し、まとめておく。			
	第6回	テーマ	言葉の発達過程について (1)			
		内容	乳児の言葉の発達過程について学ぶ。			

	回	授業時間外 学修	予習： 乳児の生活について調べておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	言葉の発達過程について (2)
		内 容	幼児の5歳頃までの言葉の発達過程について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 自分の幼児期を振り返り、言葉についての記憶をまとめる。 復習： 幼児個々の言葉の発達段階の違いについて整理する
	第 8 回	テーマ	ごっこ遊びと言葉について
		内 容	ごっこ遊びが言葉の発達に与える影響について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： ごっこ遊びについての自分の体験を思い出し、まとめておく。 復習： 幼児のごっこ遊びの実態について調べておく。
	第 9 回	テーマ	幼児と絵本について (1)
		内 容	絵本の特徴について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 絵本についての自分の体験をまとめておく。 復習： いろいろな絵本を読んでみる。
	第 10 回	テーマ	幼児と絵本について (2)
		内 容	絵本が幼児に与える影響について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児が好む絵本を調べておく。 復習： 幼児に合わせて絵本を選んでみる。
	第 11 回	テーマ	言葉とテレビ番組について
		内 容	アニメや幼児番組を視聴して、言葉との関係について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児がよく見るテレビ番組について調べておく。 復習： テレビ番組が幼児に与える影響について考える。
	第 12 回	テーマ	言葉と音楽について
		内 容	言葉と音楽、幼児と音楽の関係について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児が好む音楽について調べておく。 復習： 音楽が幼児に与える影響について考える。
	第 13 回	テーマ	言語感覚について
		内 容	「にほんごであそぼ」等の幼児番組を視聴して、言語感覚の重要性について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児番組を視聴して、言葉がどのように扱われているか整理しておく。 復習： 言語感覚を磨くのにふさわしい絵本等を選んでみる。
	第 14 回	テーマ	幼児を取り巻く言語環境について
		内 容	幼児を取り巻く言語環境と幼児の具体的な言語生活について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 自分の幼児期を振り返り、言語環境について考えておく。 復習： 言語環境が幼児に与える影響について調べる。
	第 15 回	テーマ	伝えるということについて (まとめ)
		内 容	これまでの授業を振り返り、伝えるということについて自分の考えをまとめる。
		授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点等をまとめる。 復習： 疑問点等について既習内容を確認する。
	教科書・テキスト	なし。	
	参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)	

	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
成績評価の方法・基準	レポート試験と授業の最後に提出する演習ペーパーにより、言葉の特性や発達過程についての理解の程度（35%）、伝えることの重要性や難しさについての理解の程度（35%）、「コミュニケーション能力」（4）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された演習ペーパー等については、次回の授業において解説する。
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。各授業の資料や返却された演習ペーパーを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 15 時間）
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。中学校教諭としての実務経験を活かして、言葉の性質や特徴についての理解を深め、言葉を適切に使えるよう事例を挙げながら授業を行う。
連絡先（質問等）	授業前後に、教室または研究室にて質問を受け付ける。

授業科目	幼児と表現			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	白崎直季、小田幹雄、城山萌々						
ナンバリング	E21S114	開講時期	1 年後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修 主事任用:			実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の基礎的な知識、技能を身につけることを目的とし、様々な実践活動を通じて、幼児の表現活動のあり方や課題を探っていく。</li> <li>・また、グループワークにより、自他の表現力を養い・認め合える場づくりを学び、実践する。</li> <li>・スマートフォン等からクラウドサービスを使用し、課題の製作／共有／プレゼンテーションを行う。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の感性と表現についての基礎的な内容を理解し、領域「表現」の位置付けについて説明できる。</li> <li>・様々な実践活動の中で協働して表現することの楽しさを実感し、より豊かな表現に繋げていくことができる。</li> <li>・実践活動を通じて得られた様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	領域「表現」のねらいと内容				
		内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)に示されている「表現」の意味や内容、配慮事項について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第2回	テーマ	幼児の感性と表現について				
		内容	幼児期の表現活動や感性の育ちとその意味や意義について、実際の活動の例などを参照しながら理解を深める。				
	第3回	授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた上で、表現活動にはどのようなものがあるか具体的に調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
		テーマ	身近な素材を用いた表現活動(1) 墨汁				
	第4回	内容	墨汁・紙コップ・ロール紙を用い、グループワークによる表現活動を実践する。				
		授業時間外学修	予習：墨汁を用いる活動に適した服装や環境を整えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				
	第4回	テーマ	身近な素材を用いた表現活動(2) 絵の具				
		内容	前回の墨汁による作品に、絵の具による色彩を加えて創作活動を展開する				
	第4回	授業時間外学修	予習：製作した墨汁の作品を見ながら展開の仕方について考えておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。				

第5回	テーマ	身近な素材を用いた表現活動の発展
	内容	前回までに制作した作品を素材として用い、テーマに基づいて表現活動を発展させる。
	授業時間外 学修	予習：制作した作品から様々なイメージやアイデアを拓げる 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第6回	テーマ	身体を使った表現活動について
	内容	テーマに基づき、グループワークによる身体を使ったパフォーマンスを企画する。
第7回	授業時間外 学修	予習：身体表現について調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	テーマ	身体を使った表現活動についての実践
第8回	内容	パフォーマンスの発表を行い、お互いの表現活動を鑑賞する。
	授業時間外 学修	予習：発表のための練習と準備をする。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	テーマ	音楽のイメージの表現について
第9回	内容	音や音楽による表現について知り、合奏など楽器を用いた表現活動を実践する。
	授業時間外 学修	予習：様々な楽器や音が出るものについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第10回	テーマ	ICTを用いた表現活動について
	内容	スマートフォン等の機材を使い、ストップモーションムービーを制作する。
第11回	授業時間外 学修	予習：表現活動における情報機器の活用について調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	テーマ	ICTを用いた表現活動についての実践
第12回	内容	ストップモーションムービーを完成させ、発表する。
	授業時間外 学修	予習：ストップモーションムービーの完成に向けて編集作業をする。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	テーマ	レジジョ・エミリアの保育実践について
第13回	内容	子どもの表現活動の援助について、レジジョ・エミリアの保育実践内容を参照しながら考察する。
	授業時間外 学修	予習：表現活動の援助について調べる。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
第14回	テーマ	ドキュメンテーションについて
	内容	幼児の表現活動をより充実したものにするために、記録や活動の可視化について理解を深め、これまでの活動に基づいてまとめる。
第15回	授業時間外 学修	予習：これまでの活動記録を整理しておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	テーマ	表現とコミュニケーションについて
	内容	障がい者と健常者との表現活動に関する映像資料を視聴し、表現とコミュニケーションについて考える。視聴内容について、各自テーマを付け、表現とコミュニケーションについてレポートをまとめる。
第16回	授業時間外 学修	予習：映像資料に関する配布資料を熟読しておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。

	第 14 回	テーマ	幼児の表現の多様性について
		内 容	課題レポートの内容について1分間スピーチを行う。
		授業時間外 学修	予習：課題レポートの内容をまとめておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
	第 15 回	テーマ	幼児と表現についてのまとめ
		内 容	これまでの授業を振り返り、表現をテーマにディベートを行う。
		授業時間外 学修	予習：今までの授業内容について振り返っておく。 復習：授業内容を振り返り、活動内容や各自の気づき、課題等について記録する。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） そのほか、適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	レッジョ・エミリアの幼児教育（佐藤学監修 ワタリウム美術館編 東京カレンダー株式会社） その他授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	幼稚園教育要領「表現」の理解および課題提出（70%）、「コミュニケーション能力」(3)の獲得の程度（15%）、 授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	製作した作品や発表、レポートについて、授業内で講評を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約15分）、復習（各授業回約15分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約12時間） 課題の提出に向け、製作する。（約5時間） プレゼンテーションにむけて準備を行う。（約4時間）		
備 考	必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 白崎：火曜日 12時25分～12時50分 小田：火曜日 12時25分～12時50分 城山：水曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	幼児教育者論		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	大関嘉成						
ナンバリング	E21L115	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	幼児教育者とはどうあるべきか。映像視聴やワークシートへの取り組みを通して、幼児教育者の存在意義、そして必要な能力について、求められる資質・能力を理解する。自己の理想の「先生像」を思い描きながら、追求していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育者の基本的資質と専門的能力について説明できる。</li> <li>・教育観の変遷を踏まえ、幼児教育の社会的意義を説明できる。</li> <li>・内外専門家と連携し、チームとして課題に対応する必要性について説明できる。</li> <li>・幼児教育者としての服務上の義務について説明できる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクションー教育者とはー				
		内容	自身がお世話になってきた先生方の姿・教え方等、さらにはその意図に思いを巡らせながら、教育者・保育者の在り方を考察する。				
	回	授業時間外	予習： シラバスを熟読する。				
		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	幼児教育者の社会的意義と職務				
		内容	幼稚園教諭の1日の業務に関するVTRを視聴し、その流れや思いを理解する。また、求められている職務について学ぶ。				
	回	授業時間外	予習： 幼児教育者の仕事についてまとめる。				
		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	幼児教育者の資質・能力				
		内容	教育・保育、協同性、さらには事務等の業務を踏まえ、そこに求められる資質・能力を考察する。				
	回	授業時間外	予習： 幼児教育者に求められると考える資質についてまとめる。				
		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
第4回	テーマ	子ども理解					
	内容	教育・保育に携わるにあたっての、子ども理解の重要性を学ぶ。					
回	授業時間外	予習： 要領(参考書)のp.7~9を熟読する。					
	学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
第5回	テーマ	主体性を尊重すること					
	内容	教育方法や保育方法・環境構成について自身の体験を踏まえたり、事例を学んだりし					

回		ながら、主体性を尊重する重要性を理解し、その方法を考察する。
	授業時間外 学修	予習： 要領（参考書）の p. 3～5 を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ	幼児教育における協働の必要性
	内 容	園内での協働性がもたらす子どもへの影響を理解した上で、その機会について学ぶ。
授業時間外 学修	予習：	要領（参考書）の p. 19 を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ	教育観の変遷（1）【発達観の側面から】
	内 容	伝統的な発達観を確認しながら、その教育との関係を理解する。
授業時間外 学修	予習：	配布資料を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ	教育観の変遷（2）【教育思想の側面から】
	内 容	代表的な教育思想を確認しながら、その実践の現状を考察する。
授業時間外 学修	予習：	配布資料を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	未満児との関わりにおける幼児教育者
	内 容	未満児の発達の目安を確認しながら、幼児教育者としての関わり方を考察する。
授業時間外 学修	予習：	指針（参考書）の p. 16～22 を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ	以上児との関わりにおける幼児教育者
	内 容	以上児の発達の目安を確認しながら、幼児教育者としての関わり方を考察する。
授業時間外 学修	予習：	指針（参考書）の p. 22～30 を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ	子どもの遊びをどう捉えるか
	内 容	教育観や子どもの主体性を引き出すこと等、既習した内容を踏まえ、「遊び」とはどのようなものなのか、について考察する。
授業時間外 学修	予習：	要領（参考書）の p. 2 を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ	子どもの遊びを支援する幼児教育者の資質
	内 容	特に「遊び」を充実させるための環境構成を推測し、そのために幼児教育者に求められる資質を考察する。
授業時間外 学修	予習：	遊びの支援者としての幼児教育者に求められると考える資質についてまとめる。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ	保護者や外部専門機関との連携
	内 容	子育て支援や園外との協働性がもたらす子どもへの影響を理解した上で、その機関や機会について学ぶ。
授業時間外 学修	予習：	要領（参考書）の p. 10、19 を熟読する。
	復習：	授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 14 回	テーマ	幼児教育者の生涯の学び
	内 容	幼児教育者になるにあたって、自身が身につけるべきであると考えられる能力を踏まえ、その学び

	回		を得るための今後の自身の在り方を考察する。
	授業時間外 学修		予習： 幼児教育者としての自身にとって、今後、必要な学びをまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	総括
		内容	授業全般を振り返り、その確認を行うと共に幼児教育者とはどうあるべきなのか、考察する。
	授業時間外 学修		予習： 幼児教育者の役割に関する既習内容を振り返り、要点をまとめる。 復習： 既習内容を振り返り、疑問点を確認する。
教科書・テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
成績評価の 方法・基準	毎時提出するワークシート、最終レポートから、各領域理解の程度（75%）、「コミュニケーション能力」(1) 獲得の程度（10%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	ワークシートは次回、最終レポートは最終回で、採点の後、レビューする。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。（約 45 時間） 返却された提出物を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 2 時間）		
備 考	毎時ワークシートを課す。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育原理		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	大関嘉成						
ナンバリング	E21L116	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修 主事任用:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	映像視聴やワークシートへの取り組みを通して、教育の意義、教育史等を理解し、「教えるとはどういうことなのか。教師とはどのような存在なのか、子どもたちにはどのようにしてほしいのか」について追求する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の特殊性や伝統的な教育観から教育の意義を説明できる。</li> <li>・学校教育史や教育に関する思想から、その教育理念を推察できる。</li> <li>・人間の成長・発達における教育・学校・教師の役割について説明できる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクションー教育とは何かー				
		内容	「人間」はなぜ「人間」足り得るのか。自身の体験を踏まえながら、そこに存在する教育の役割について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	学ぶ・教える能力				
		内容	人間と人間以外の生物を比較しながら、学ぶこと、教えることを能力として捉え、人間の特殊性を学ぶ。				
	回	授業時間外学修	予習： 前回のノートを踏まえ、人間らしさについてまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	教育の重要性				
	第3回	内容	ヒトにとっての教育の役割について、前回とは異なる事例を確認しながら学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 前回のノートを踏まえ、教育の意義についてまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	発達への助成的介入				
		内容	教育の重要性を確認した上で、その可能性について学び、考察を深める。				
	回	授業時間外学修	予習： 前回のノートを踏まえ、教育の方法についてまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	共同体の人間形成能力				
	第5回	内容	特に日本の共同体における子育て感や、また通過儀礼も含めながら伝統的子育て感について学び、現代社会の子育ての現状を捉え、自身の教育観に繋げる。				
		授業時間外学修	予習： 自身の地域行事や地域の大人と子どもの関わりについてまとめる。				

	学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ	日本の学校史・思想家
	内 容	日本における私学的な教育機能、また公教育の成立について学ぶ。さらに戦前・戦後の教育制度、教育理念を比較しながら理解する。また、日本の代表的な教育思想家を確認する。
	授業時間外 学修	予習： 日本の学校・思想家に関する、参考書の当該ページを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ	世界の学校史（1）〔～近代〕
	内 容	世界史における古代文明期の教育機能から、産業革命に関わる近代公教育の成立までを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 近代までの世界の学校史に関して、参考書の当該ページを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ	世界の学校史（2）〔近代～現代〕・思想家
	内 容	近代公教育の特徴を学び、さらに現代の各国の教育制度を概観する。また、世界の代表的な教育思想家を確認する。
	授業時間外 学修	予習： 近代以降の世界の学校史に関して、参考書の当該ページを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	今日の学力観と課題
	内 容	PISA や TIMSS を事例として確認しながら、現代さらには将来の良き市民となるためのミニマム・エッセンシャルズを考察する。
	授業時間外 学修	予習： 「学力とは何か」、考えをまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ	道徳教育における課題
	内 容	価値の絶対性・相対性を踏まえた上で、道徳を身につけるための、また道徳観を支えるための考え方の方法を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 小学校以降の道徳の授業、「しつけ」に関して、意見をまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ	教育と言語・文化における課題
	内 容	世界や日本の「言葉」を事例としながら、その人間形成にもたらす影響を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 方言とその意味・語感をまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ	学習の意義理解に関する課題
	内 容	日本の保育制度・学校制度で与えられてきた保育・教育を客観化し、「学ぶ」とはどういうことなのか考察する。
	授業時間外 学修	予習： 「なぜ学ぶのか」、考えをまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ	教師の役割
	内 容	各自でまとめた「教師観」の交流を行い、自身の教師としての在り方を定め、今後の学びの目標を立てる。
	授業時間外 学修	予習： 「教師に期待すること」をまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

	第 14 回	テーマ	教育と人権における課題
		内 容	子どもの人権の法的根拠を確認しながら、不適切な教育・保育・養育を推測し、自身の教育観を考察する。
		授業時間外 学修	予習： 児童の権利に関する条約の内容を確認する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	総括
		内 容	授業全般を振り返り、その確認を行うと共に、教育とは何か、考察する。
		授業時間外 学修	予習： 教育の意義に関する既習内容を振り返り、要点をまとめる。 復習： 既習内容を振り返り、疑問点を確認する。
教科書・テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考書・参考資料等	教育学への視座（青木久子・磯部裕子・大豆生田啓友 萌文書林） よくわかる教育原理（汐見稔幸・高田文子・東宏行・増田修治編 ミネルヴァ書房）		
成績評価の 方法・基準	毎時提出するワークシート、中間レポート、そして最終レポートから、各領域理解の程度（75%）、「コミュニケーション能力」（2）獲得の程度（10%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	ワークシートは次回、中間レポートは第9回目、最終レポートは最終回で、採点の後、レビューする。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。（約45時間） 返却された提出物を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約2時間）		
備 考	毎時ワークシートを課す。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育心理学		授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当者	大関嘉成						
ナンバリング	E21S117	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:選択必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	近年、教育における諸問題に関連して、心理学が話題とされることが増え、それに対する期待も高まっている。実際、教育心理学はどこまでその期待に応えられるか。毎回実験を確認しながら、発達と学習に関する基本的な知見を理解し、保育への応用を考察する。そして、リアクションペーパーにアウトプットしていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達過程及び内因の枠組みとしての知識、学習等の諸概念について説明できる。</li> <li>・発達観をもとに自己の教育観を確認し、望ましい学習活動についての展望を記述できる。</li> <li>・効果的な指導のために、幼児、教師、教授活動を要因群として捉える分析的な視点を身につけ、説明できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクションー教育心理学とはー				
		内容	科学的な根拠に基づき心理学は成立していることを理解し、心理学の理論はどのように提唱されるに至ったのか学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	記憶（1）ー記憶システムー				
		内容	記銘の特性を理解し、保育における情報の「伝え方」を考察する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「記憶」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	記憶（2）ー忘却ー				
	第4回	内容	忘却の特性を理解し、引き続き保育における情報の「伝え方」を考察する。				
		授業時間外学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「記憶」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	知識とその種類				
		内容	宣言的知識等の知識の種類を理解し、ネットワークや行動スキーマ成立に至る事例を検討する。				
	第5回	授業時間外学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「知識」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	知識と問題解決				
	内容	問題解決に関する知識とその方法の種類を学ぶ。					

	回	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「知識」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第6回	テーマ	学習過程（1）－条件付け－	
	内容	レスポネント条件付け、オペラント条件付けについて学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「学習」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第7回	テーマ	学習過程（2）－観察学習その他－	
	内容	観察学習や自己強化に関して学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「学習」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第8回	テーマ	動機づけ（1）－統制感と原因帰属－	
	内容	「やる気」に関して、統制感と原因帰属の側面から理解する。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「動機づけ」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第9回	テーマ	動機づけ（2）－内発的動機づけ－	
	内容	「やる気」に関して、オペラント条件付けの知見と報酬の側面を踏まえながら、内発的動機づけと外発的動機づけを理解する。そして、内発的動機づけをもたらす保育者の関わり方を考察する。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「動機づけ」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第10回	テーマ	学級集団（1）－教師と子ども－	
	内容	教師期待効果や目標の考え方と動機づけの関係を学び、教師が子どもに与える影響を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「人間関係」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第11回	テーマ	学級集団（2）－学級の人間関係－	
	内容	人間関係を測定する各種尺度を確認し、子ども同士の人間関係を捉える視点を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「人間関係」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第12回	テーマ	様々な発達観	
	内容	フロイト、ピアジェ、エリクソンの発達観を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「乳幼児期の発達」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第13回	テーマ	乳幼児期から青年期における発達の特徴	
	内容	乳児期、幼児期、児童期、思春期、青年期の発達に関して、キーワードを中心に概観する。	
	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「児童期～青年期の発達」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第14回	テーマ	教授法と評価	
	内容	教授法のスタイルや適性処遇交互作用、先行オーガナイザーについて学び、保育にける事例を検討する。さらに評価活動に関する基本的な用語を確認する。	

	授業時間外 学修	予習： 参考書等の文献を活用し、「教授法」について調べる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ 総括
	授業時間外 学修	予習： 教育心理学の基本的な知見に関する既習内容を振り返り、要点をまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
教科書・テキスト	適宜、資料を配布する。	
参考書・参考資料等	よくわかる教育心理学（中澤潤編 ミネルヴァ書房）	
成績評価の 方法・基準	毎時提出するワークシート、そして最終レポートから、各領域理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」（1）獲得の程度（10%）、授業参加度（30%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法	ワークシートは次回、最終レポートは最終回で、採点の後、レビューする。	
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。（約45時間） 返却された提出物を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約2時間）	
備考	毎時ワークシートを課す。	
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	発達心理学		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	太田裕子						
ナンバリング	E21L118	開講時期	1年次後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配付資料を用いて、乳幼児の発達及び学習に関する諸概念や過程を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、発達を踏まえた主体的学習を支える保育についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の発達及び学習に関する諸概念について理解し、説明ができる。</li> <li>・乳幼児の運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達及び学習の過程について理解し、説明ができる。</li> <li>・乳幼児の心身の発達を踏まえた主体的学習を支える保育の考え方を理解し、説明ができる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	人間における発達の独自性				
		内容	人間の発達の独自性を踏まえ、乳幼児期の発達の重要性を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	発達理解の方法と意義				
		内容	グループワークによる子どもの知能検査の体験を踏まえ、子どもの発達を捉える視点、子どもの発達を理解することの意義を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：子どもとかわった体験を振り返り、子どもについてのイメージを整理しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	子どもの学習に関する理論				
		内容	学習、発達に関する理論の概要を知り、過去における学習観と発達観を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：自分の体験を振り返り、言葉の獲得の過程について小レポートにまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	子どもの身体機能と運動の発達				
		内容	子どもの身体機能と運動能力の発達を知り、映像視聴を通して保育者のかかわりを考える。				
		授業時間外学修	予習：「発達加速現象」の意味を調べ、どのような例があるかを考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	子どもの言語の発達				
		内容	子どもの言語の発達過程を学び、保育者のかかわりについてグループディスカッション				

	回		ョンを行い、そこで得られた考えについてプレゼンテーションを行う。
	授業時間外 学修		予習：3歳未満児、3、4、5歳児に読み聞かせたい絵本を選ぶ。 復習：グループディスカッション、プレゼンテーションについての感想をまとめる。
第 6 回	テーマ		子どもの社会性の発達
	内容		子どもの社会性の発達過程を学び、映像視聴を通して保育者のかかわりを考える。
	授業時間外 学修		予習：子ども同士のいざごごに対する対応について考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ		愛着の形成
	内容		ボウルビーの理論、愛着の形成の概要を知り、保育者のかかわりを考える。
	授業時間外 学修		予習：保育所保育指針 P.6～7、13 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.15～17を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ		子どもの考え方の特徴
	内容		ピアジェの理論、幼児期における知的発達の過程を知り、保育者のかかわりを考える。
	授業時間外 学修		予習：実習での体験を振り返り、「子どもならではのものの見方、考え方」だと自分が感じたことをまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ		子どもの認知発達と学習
	内容		ヴィゴツキーの理論、子どもの認知発達と学習の過程を知り、保育者の関わりを考える。
	授業時間外 学修		予習：実習での体験を振り返り、子どもの成長を促す保育者の言葉がけにはどのようなものがあつたかをまとめる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ		子どもの心身の発達と主体的学習
	内容		保育実践の事例を通して、子どもの心身の発達と主体的学習について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：幼稚園教育要領 P.5、8～11 保育所保育指針 P.7～8、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.4～5を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ		子どもの主体的学習を支える保育の評価の考え方
	内容		保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの主体的学習を観点とした保育の評価についてグループディスカッションを行い、各グループの考えについてプレゼンテーションを行う。
	授業時間外 学修		予習：幼稚園教育要領 P.11、保育所保育指針 P.9～10、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.12を読む。実習での体験を振り返り、保育の評価の仕方について考える。 復習：グループディスカッション、プレゼンテーションについての感想をまとめる。
第 12 回	テーマ		遊びにおける主体的学習
	内容		保育実践の事例を通して、遊びにおける主体的学習について学ぶ。
	授業時間外		予習：実習での体験を振り返り、子どもが好きな遊びをまとめる。

	学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ	発達を踏まえた主体的学習を支える保育者の役割と援助
	内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、主体的学習を支える保育者の役割と援助についてグループディスカッションを行い、各グループの考えについてプレゼンテーションを行う。
	授業時間外 学修	予習：実習での体験を振り返り、主体的学習を支える保育者の援助についてまとめる。 復習：グループディスカッション、プレゼンテーションについての感想をまとめる。
第 14 回	テーマ	発達障害の概要と支援
	内 容	発達障害の概要を知り、映像視聴を通して支援について学ぶ。
授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領 P. 12、P. 27、保育所保育指針 P. 9、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 12～13 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 15 回	テーマ	まとめ
	内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いたまとめを行う。
授業時間外 学修	予習：既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習：疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。	
第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） また、授業中に適宜資料を配付する。	
参考書・参考資料等	保育の心理学Ⅰ（無藤隆・藤崎真知代編著 北大路書房） 保育の心理学Ⅱ（清水益治・無藤隆編著 北大路書房）	
成績評価の方法・基準	定期試験と毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児の発達及び学習についての諸概念や過程、発達を踏まえた主体的学習を支える保育に関する理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。	
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間） 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 3 時間）。	
備 考	—	
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	保育・教育課程論		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	小森谷 一朗						
ナンバリング	E21L120	開講時期	1年次後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	関係法令等に基づき、教育課程・全体的な計画や長期・短期の指導計画の作成・立案に関する基礎知識について学ぶ。また、具体的な教育課程・全体的な計画の展開について学ぶことを通して、保育者の役割を理解し、必要な能力について考え、実践する方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。</li> <li>・教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。</li> <li>・計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造をとらえ、理解する。</li> <li>・「自分で考え、実践できる力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」能力を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション ～カリキュラム（教育課程）とは～				
		内容	これからの授業の進め方や評価等について説明する。 カリキュラム（教育課程）とは何か、また、カリキュラムの類型とその特徴などについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	日本におけるカリキュラムの基礎理論				
		内容	我が国の幼稚園教育要領や保育所保育指針等の変遷や幼児期の教育課程の歴史について学ぶ。また、現在の日本の学校教育におけるカリキュラムについて学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第3回	テーマ	保育における計画の意義				
		内容	保育における計画の意義やその重要性について理解し、これからの教育課程に求められるものは何かについて学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第4回	テーマ	幼稚園の教育課程				
		内容	幼稚園における教育課程の役割と編成について、その法的根拠に基づいて学ぶ。				
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第5回	テーマ	保育所の全体的な計画				
		内容	保育所における全体的な計画の役割と編成について、その法的根拠に基づいて学				

	回		ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ		幼保連携型認定こども園の全体的な計画
	内 容		幼保連携型認定こども園における全体的な計画の役割と編成について、その法的根拠に基づいて学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	長期の指導計画の作成
	内 容		指導計画の基本的な考え方について理解し、長期の指導計画作成の基礎を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ		短期の指導計画の作成
	内 容		指導計画の基本的な考え方について理解し、短期の指導計画作成の基礎を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	3歳未満児の指導計画
	内 容		保育所保育指針等に示されている「乳児保育」「1歳以上3歳未満児」の視点について理解し、指導計画作成の基礎やその後の実践展開について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ		3歳以上児の指導計画
	内 容		3歳以上児の発達の特徴を理解し、指導計画作成の基礎やその後の実践展開について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	カリキュラム・マネジメント
	内 容		カリキュラム・マネジメントの意義について理解し、PDCAサイクルによる保育の質の向上について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ		保育の評価
	内 容		保育における評価の意義について理解し、その評価の方法やPDCAサイクルによる保育の質の向上について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	保育記録
	内 容		保育の評価を支える保育記録の重要性について理解し、子ども一人一人に対する記録を基にした省察による保育の質の向上について学ぶ。
	授業時間外 学修		予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

	第 14 回	テーマ	小学校との接続 ～学びの連続性～
		内 容	幼児教育と小学校教育のカリキュラムの違いについて理解し、小学校との接続を踏まえた幼児教育の考え方やその方法について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ ～世界の乳幼児期の教育～
		内 容	これまでの内容を振り返りながら、世界の乳幼児期の教育に関する考え方に触れる。
		授業時間外 学修	予習：これまでの学修内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。 復習：これまでの学修内容を見直し、要点をまとめる。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） また、授業中に適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	保育・教育課程論（佐藤哲也編著 福村出版） 教育課程論（神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香編著 光生館） 保育カリキュラム論-計画と評価-（豊田和子・新井美保子編著 建帛社） 教育・保育カリキュラム論（千葉武夫・那須信樹編著 中央法規）		
成績評価の 方法・基準	授業後のレポート（小レポート10回、大レポート3回）による「保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価についての理解」「教育課程の編成と指導計画の作成についての理解」「計画、実践、省察・評価、改善の過程の全体構造についての理解」の程度（70%）、「自分で考え、実践できる力」(1) 獲得（学修の成果物）の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	提出されたレポートや指導案の内容については、次回の授業にて解説をする。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画に示された内容を実施する。 返却された提出物については、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（約2時間）		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立小学校で16年、公立幼稚園で6年教諭として業務に従事した実務経験をもつ。教諭としての実務経験を生かして、保育方法の学習について具体的な事例を挙げながら授業を行う。 学生の理解度によってシラバスを一部、変更する可能性がある。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12:25～12:50 その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育の方法と技術		授業形態	講義	単位数	2 単位		
担当者	小森谷 一朗、花田 嘉雄							
ナンバリング	E21L121	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回	
必修・選択	幼免：必修 保育士：選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	幼児教育・保育の基盤となる幼児理解の在り方やそれを踏まえた保育の計画・実践・評価といった保育方法の基礎的な理論と実践の理解を目指す。また、保育者として関わり方や子どもの関係性を捉える方法についての理解を深める。さらに、情報機器を含めた教材の活用に関する基礎的な知識・技能の習得を目指す。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児理解の在り方やそれを踏まえた保育方法の基礎的な理論と実践について理解する。</li> <li>・保育者として関わり方や子どもの関係性を捉える方法について理解する。</li> <li>・情報機器を含めた教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を身につけることができる」を身につける。</li> </ul>							
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション ～保育の基本と保育の方法～				(担当 小森谷)	
		内容	これからの授業の進め方や評価等について説明する。 保育とは何か、保育方法とは何かを切り口にして幼児教育・保育の基本を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第2回	テーマ	幼児理解とその方法				(担当 小森谷)	
		内容	保育における幼児理解の重要性やそれを基にした保育方法について学ぶ。					
	第3回	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
		テーマ	幼児理解に基づいた評価				(担当 小森谷)	
	第4回	内容	評価という言葉のもつイメージをきっかけにして、保育における幼児理解に基づいた評価やPDCAサイクルについて学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第5回	テーマ	子どもにとっての遊び				(担当 小森谷)	
		内容	子どもにとっての遊びとはどのような意味があるのかを学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第5回	テーマ	遊びを通しての総合的な指導				(担当 小森谷)	
		内容	遊びを通しての総合的な指導についての理解を深め、それを支える保育者の関わりについて学ぶ。					
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。						

	学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第6回	テーマ	環境を通した保育 (担当 小森谷)
	内容	環境を構成することの意義や意味を学び、環境を通した保育の方法について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第7回	テーマ	子どもの遊びとその環境構成や援助 (担当 小森谷)
	内容	予想される子どもの遊びを挙げながら、その遊びを展開させるために保育者にはどのような環境構成や援助が必要なのかを考える。
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	保育における個と集団 (担当 小森谷)
	内容	様々な保育形態とその特徴について学び、子どもにとってふさわしい園生活について考える。
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第9回	テーマ	基本的な生活習慣の自立と道徳性の芽生え (担当 小森谷)
	内容	園生活を通して行う基本的な生活習慣の自立や道徳性の芽生えなどの生活の指導について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第10回	テーマ	家庭・地域と連携した保育とその実際 (担当 小森谷)
	内容	子育ての現状をきっかけに、家庭や地域と連携した望ましい保育について、実践例を基に学ぶ。
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第11回	テーマ	児童文化財に関わる保育とその実際 (担当 小森谷)
	内容	児童文化財を保育に活用することの意義やその実際について学ぶ
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第12回	テーマ	造形遊びに関わる保育とその実際 (担当 花田)
	内容	造形遊びで活用される身近な用具の扱い方について学ぶ。後半にはさみを使ったワークを行う。
	授業時間外学修	予習：子どもができるような制作活動について考えてくる。はさみを準備する。 復習：用具を使ったワークについての簡易レポートをまとめ、提出する。
第13回	テーマ	情報機器を活用した保育とその実際 (担当 小森谷)
	内容	情報機器を使つての情報発信ツールとしての活用について学ぶ。また、情報活用能力基礎の育成を視野に入れた保育環境としての活用について学ぶ。
	授業時間外学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第14回	テーマ	指導案の作成 (担当 小森谷)
	内容	これまでに学んだことを生かして、題材を決めて短い計画の指導案作成に臨む。

	回	授業時間外 学修	予習：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ ～保育者に求められる専門性～ (担当 小森谷)
		内容	これまでの内容を振り返りながら、保育者に求められる専門性について考える。
	回	授業時間外 学修	予習：これまでの学修内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。 復習：これまでの学修内容を見直し、要点をまとめる。
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>また、授業中に適宜資料を配布する。</p>		
参考書・参考資料等	<p>幼児理解から始まる保育・幼児教育方法（小田豊・中坪史典編著 建帛社）</p> <p>保育方法・指導法（大豆生田啓友・渡邊英則編著 ミネルヴァ書房）</p> <p>保育方法論（神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎編著 光生館）</p>		
成績評価の方法・基準	<p>授業後のレポート（小レポート10回、大レポート4回）による「幼児理解の在り方やそれを踏まえた保育方法の基礎的な理論と実践についての理解」「保育者として関わり方や子どもの関係性を捉える方法についての理解」の程度（80%）、「コミュニケーション能力」(3) 獲得（指導案の内容）の程度（10%）、授業参加度（10%）で評価する。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートや指導案の内容については、次回の授業にて解説をする。</p>		
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画に示された内容を実施する。</p> <p>返却された提出物については、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（約2時間）</p>		
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員は、公立小学校で16年、公立幼稚園で6年教諭として業務に従事した実務経験をもつ。教諭としての実務経験を生かして、保育方法の学習について具体的な事例を挙げながら授業を行う。</p> <p>学生の理解度によってシラバスを一部、変更する可能性がある。</p>		
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 水曜日 12:25～12:50</p> <p>その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>		